

天声人語

10代で熱心に聴いた曲は年齢を重ねても耳に快く響く。筆者の場合、米国の流行歌から入つてその源流とも言うべきチャック・ベリーの曲にたどり着き、一時どっぷり浸つた▼演奏のみは早々にあきらめたが、歌詞にひかれた。飾りのない声が伝えるのは、好きな車、嫌いな教師、失恋、家出、黒人差別……。軽快なリズムの奥に米国の10代の鬱屈が見えた▼ベリー氏自身、荒れた青春時代を送つた。置き引き、万引き、空き巣を重ねた。仲間と家出をし、車を強奪して捕まる。少年院に収容中、コーラス団をつくりゴスペルを歌つた。クラブでの演奏で稼げるようになつたのは出所した後である▼高校生活の思い出を歌つた「メイベリーン」が当たり、20代末で全米デビューした。「ジョニー・B・グッド」「ロール・オーバー・ペート・ベン」で名声をつかむ。その後も脱税事件で世間を騒がせたが、彼の音楽はビートルズなど後の世代の魂を揺さぶり、超えるべき目標となつた▼そのベリー氏が先週末、ミズーリ州の自宅で亡くなつた。90歳。新作アルバム「チャック」が6月に出て予定だつた。衰えぬ創作意欲に驚く▼訃報に接して、久々に歌詞を読み直した。「読み書きはうまくできないけれど、ギターなら鐘を鳴らすみたいに弾ける」「ペート・ベンをぶっ飛ばせ。チャイコフスキイに教えてやろう」。その生涯を貫いたのは10代のころと変わらぬ無鉄砲さか。それとも権威に屈しない健全な反逆精神と呼ぶべきだろうか。

2017・3・21